

教 育 委 員 会 議 事 録

(令和3年度 教育委員会 第2回定例会)

開会 令和3年5月12日(水)

閉会 令和3年5月12日(水)

午前9時00分

午前9時54分

場所 西宮市役所東館 801 会議室

| | | | | |
|-----------|-----------------------------------------------------------|--------|----------|-------|
| 出席委員 | 教育長 重松 司郎 委員 側垣 一也 委員 長岡 雅美 委員 藤原 唯人 委員 山本 幸夫 | 欠席委員 | | |
| 会議に出席した職員 | 職 | 氏 名 | 職 | 氏 名 |
| | 教育次長 | 藤井 和重 | 地域学校協働課長 | 岡田 良一 |
| | 教育次長 | 佐々木 理 | 学校保健安全課長 | 濱本 新 |
| | 教育総括室長 | 薩美 征夫 | 教育企画課係長 | 瀧井 佑介 |
| | 参与(人事担当) | 八橋 徹 | 教育総務課係長 | 青木 威 |
| | 参与(教育政策推進担当) | 岡崎 州祐 | | |
| | 学校支援部長 | 吉田 巖一郎 | | |
| | 学校教育部長 | 漁 修生 | | |
| | 教育総務課長 | 竹村 一貴 | | |
| | 教育企画課長 | 原田 博司 | | |
| 署 名 | 教育長 | | 委員 | |

付 議 案 件

<教育長報告>

<議 題>

- | | | |
|--------|---------------------------|-----------|
| 議案第4号 | 西宮市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱の件 | (地域学校協働課) |
| 議案第5号 | 西宮市教育委員会事務事業評価アドバイザーの選任の件 | (教育企画課) |
| 報告第10号 | 西宮市学童等腎臓検診審議会委員の解嘱及び委嘱の件 | (学校保健安全課) |

<一般報告>

- | | | |
|-------|--------------------------|-----------|
| 一般報告① | 令和3年度 西宮教育推進の方向(概要版)について | [教育企画課] |
| 一般報告② | 児童生徒の状況について 非公開 | [学校保健安全課] |

以 上

傍 聴

0名

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重松教育長 | <p>ただいまより、令和3年度 第2回 教育委員会定例会を開催します。議事録署名委員には、側垣委員を指名します。よろしくお願いします。</p> <p>はじめに、1月定例会と2月定例会について、議事録の承認を行います。</p> <p>議事録は既にお手元に送付し、確認していただきましたが、簡単な字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 重松教育長 | <p>異議なしと認めます。それでは、承認します。</p> <p>なお、簡単な字句の訂正があれば、事務局にお伝えください。</p> <p>ここで、各委員に確認します。</p> <p>本日は傍聴者がおられません、会議は公開が原則ですが、一般報告②は個人情報を含む案件であり、公開により率直な意見交換ができなくなる恐れがあるため、非公開としたいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 重松教育長 | <p>異議なしと認め、非公開とします。</p> <p>審議の順番についてですが、公開案件から先に行い、続いて非公開案件に移りたいと思います。</p> <p>では、はじめに私から報告させていただきます。</p> <p>現在コロナがこういう状況になっていますが、このコロナの状況によって投げかけられた問いが多くあります。中央教育審議会の初等中等教育分科会の中で、そのことについて話がされたようで、その中で一つは学校の価値についてどうだという話があったそうです。</p> <p>そもそも学校は何を担っているのか。それから学校は何を守り、何を育てていたのか、ということが改めて顕在化したのではないかとということが言われています。</p> <p>中央教育審議会では、変動制、不確実性、複雑性、不透明性が高い状態において、コロナ禍に陥ったことによって、「予測不可能な社会を真に自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力とは何か」という切実な問いが投げかけられたと言われています。言い換えれば、「この状況で自立的な自分たちの暮らしや地域や社会を守り創るために発揮される資質・能力こそ、これからの時代の初等中等教育が育むべき資質・能力ではないか」ということです。</p> |

その中で学びのあり方、それから具体的な方法についても、転換の機会になっているのではないかとされています。このコロナ禍にどう対応すればいいかということで、試行錯誤しているわけですが、世界の誰も正解を知らない、答えが分からない状況の中であって、「大人は知っている、又は先生も知っている、だから教える」「子供は知らない、だから教えてもらう」という構図ではなく、「大人も子供も誰もが共に考え、判断し、行動することが求められているのではないかとされています。

さらに、総がかり的な「総合的な探究の時間」の「探究」という学びのあり方が今後、大事になるということです。「探求をするため」にはどういうことが必要かということ、一つは今、日本でも進められていますが、デジタル技術を活用して、いろいろな情報を得て、その中で判断する。そういう調べ方の授業が大切です。大事なことは、ただ調べて判断するのではなく、そのための土台はしっかり作っておくということ。つまり日本でよく言われる「読み書きそろばん」の基礎をしっかり作っておく必要があります。

それともう一つは、先ほどの「大人は知っている、教える」「子供は知らないから教えてもらう」という考え方ではなく、孔子の論語で言われている「啓発」という言葉がありますが、「教えてもらう側にも問題意識を持って、自ら取り組もうとする情熱がないとだめだ」とことです。要するに解決へむけ糸口を見出そうと粘り強く努力する根気のない者は、何を教えても身に付かない。例えて言えば四角いものの一边を教えたら、あとの三辺を試行錯誤しながら解明するぐらいの意欲がなければ何一つ物にならない。教える側と教わる側が一体となったときに、いろいろなことを学んでいって、次から次へとドミノが倒れるように連鎖が生じるとされています。そういう意味では、せっかくデジタル化し、オンライン環境があるわけですから、それを活用していくと同時に教える側も意欲をもって教えていく、教わる側も意欲がなければならぬということになります。ですからただ単に、教える側だけの問題ではなくて、教わる側の問題も今回顕在化したのではないかとされています。

それともう一つは、今後は色々な事柄について、デジタル素材を活用して学んでいくわけですが、やはり一番大切なことはリアルな価値が高まらなければならないということ。五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚）を使って、実際に手触りなど確認し、いろいろな体験を通して、リアルな感覚そのものを自分のものにしなければならないということを言われています。ですから農業や漁業などのことを学んだときに、田植えや、釣り、山菜採り、畑仕事、園芸など、そういう体験

をすることで、ああこういうことが大切なのだな、こういうことをやっていかな
いといけないのだな、実際にやってみると学んだことよりももっと難しいのだな、
など、いろいろなことが分かると思うので、そういうリアルの価値が非常にこれ
から重要になるのではないかと考えています。ポイントとしては単に頭の中で理
解して分かったつもりでいたものが、リアルな体験をすることで本当の学びとな
り、単に知識を得るのではなく、AI時代を生き抜くことができる豊かな感性や
人間性を育むことが大切ではないかとされています。

そう考えると、このコロナ禍の時代において、これからの学校教育に大切なこと
は、目の前の危機とリスクだけではなく、先にある希望を見据えた学校づくりで
はないかと。地域の実情、それから子供の様子などを把握しながら、「魅力ある学
校」をつくる必要があるのではないかと考えています。そして子供たちが「学び
たい」、保護者も「通わせたい」、地域の人々も「協働したい」、そして教職員も「あ
そこの学校で働きたい」という魅力ある学校づくりをすることが大切ではないか
とされています。

その中で、直接ではないのですが二つ気を付けていきたいことがあります。

一つは、体力についてで、今回このコロナ禍でやはり子供たちの体力がかなり落
ちてきています。体力というのは、「人が知性を磨き、知力を働かせて活動してい
く源」であり、「生活する上で気力の源」であり、人々が活動を行う基礎となるの
で、それがないとだめだと。このことは健康にも影響し、知力低下にもなるので、
どうするのが大きな課題だと言われています。そして体力については昭和60
年度から調査を進めていますが、最近言われていることは、運動する子供としな
い子供の二極化の傾向があるということ。学校現場の実態で、朝礼のときに倒れ
てしまう、机にじっと座ることができない、常に疲労感を感じている子供がいる、
などということが起こっています。ではどうすればいいのかということですが、
子供の運動の実態として言われていることは、まず大人の意識がかなり変わっ
てきており、今まではスポーツも大切だとなっていたのですが、何となくスポーツ
を軽視するような傾向にあるのではないかとされています。それから自動車や
交通機関が発達したことによって、歩く機会が減少した、子供が家事を手伝う機
会が明らかに減少している、外で遊んでいたのがゲームなどによって体を動かす
機会が減少した。また、群れて遊ぶことがないので仲間意識が非常に減少して
いる。深夜まで起きているなど、規則正しい生活ができない習慣になっていると
いう問題があるのではないかなど様々な要因が挙げられてきましたが、今回、それ
だけが原因ではないのではということが言われています。

ということかという、一つは、地域でスポーツを指導する人がいないのではないかということです。西宮もスポーツクラブ21を実施していますが、指導者が子供たちの運動をきちんと指導する、そういう体制になかなかないのではないかと。それからもう一つは、学校の先生、特に小学校の先生たちが、スポーツを教えるときの教え方にも問題があるのではないかということです。以前は子供たちが基礎的なことをある程度遊びの中でやってきていたので、それを基に色々なスポーツのルールなどを教えていたので導入がスムーズでしたが、今は、基礎のところから教えなければならないので、もう少し先生自体も変わらなければいけないのではないかとされています。それともう一つは、子供の生活習慣に大きな問題があると、これはもう家庭とどう連携するかということが大きな課題だと言われています。

体力向上するための対策としては、運動するための習慣づくりを幼児期から始めていかなければいけない。このことは、今までなら特別にやらなくてもできていたものが、これからは対策をしていかなければならないということです。特に、保育所・幼稚園では自発的に運動する楽しさを教えることと同時に、自分の体をどう動かせばいいのかということを知らなければいけないということが言われています。転倒しそうになったときにも全然手をつけない子供や、少しのことで骨折する子供が出てきているので、体の動かし方、対応の仕方まで教えていかなければいけないような状況になっているということがあります。

それから学校の体育では、ただ単に運動するのではなく、運動の中に楽しさを取り入れる工夫が必要だと言われています。自分の体力が向上するということを知ることによって、その後へつながっていくので、特に小学校ではただ単に運動するのではなく、運動することは楽しいという、そういう意識付けをしていかなければいけないのではないかとされています。さらに、学校外で運動する機会を設ける必要もあります。西宮でも放課後に外遊びを設けていますが、それもただ遊ばせるだけではなくて、その中身に幾らか手を加えてやらなければいけないのではないかと。例えば遊び方の工夫、こんな遊びができるよということなどを少し教えることも必要ではないかと考えています。ただ単に運動すればいいというのではなくて、具体的にやらなければいけないことが分かっていますので、西宮市としても、今後取り入れていく必要があると思っています。

それからもう一つは、最近「読解力」ということを言われていますが、読むことについても具体的な話が出ています。ということかという、読むことの意義について、本を読むことが大事なのももちろんですが、一番大事なものは「読む価値

値がある本」なのか。知識が得られただけではなく、いろいろな感情などが育つものなのかなど、本を選ぶ際の判断基準が必要ではないかと言われ始めています。大事なことは、とりあえず30歳ぐらいまでは、自主的にいろんな本を読む、長編、短編、叙情詩でも、実用書でも、科学本などでもジャンルの質を問わず、手当たり次第にたくさんの本を読む必要がある。ただ、先ほど言ったように、ただ読めばいいのではなく、本を「選んで」読むということが非常に大切だと。本の質を判断する力をそこで蓄えること。そのことによって30歳を過ぎたら、自分がどんな本を読めばいいのかなど、そういう判断ができるようになってくると言われています。それから、読書をして日にもちが経てば、本の記憶というのは約3%程度しか残らないのだそうです。二度読んだら30%まで増える。だから時間をかけて集中して読めばどれだけのことを吸収できるのか、二度読んだらさらにいろんなことが吸収できるので、そういうことも知っておきながら本を読むことが必要だと思います。ただ、一生のうちで人間が記憶に残ってよかったと思う本は大体50冊ぐらいだそうです。それ以上はあまり思い出せないということになるので、何が大事かという、本を読み終わったら必ず読書カードに簡単でもいいから、自分の思ったこと、自分の考えたこと、学んだことを簡単にメモしておく必要があるということです。何かの際にはその情報を読書カードから取り出すことによって、それを活用することができるし、さらにそれを発展させて調べることができる。ただ、ミステリーやスリラーなどは、読書カードは要りませんよということも言われています。やはり読むのであれば本の質を考える。何のためにこの本を読むのかということと、まず小中学校の間は偏った本を読むのではなく、いろいろなジャンルの本を読むということが大切ではないかということをお話させていただきました。本を通して、創造力や判断力などそういう力をつけることができるので、子供たちが成長していくためには、読書というのは非常に大切なものだと。ただ、読書の方法として、紙の本で読むのか、デジタルで読むのか、そのあたりのところはまだいろいろありますが、まず、読書をするのが大切です。

今回このコロナ禍の中で、学校のあり方、それから体づくりのこと、それから読書のことについて、今までとは若干違う見解が出てきていますので、それらを西宮市でも取り入れていきたいと思っています。

私からの報告は以上です。

何かありましたら、お願いします。

| | |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 山本教育委員 | <p>たくさんのお話があったのですが、「学校のあり方」ということについては、私が最近ずっと考えているところです。今「学びのあり方」それから「学校のあり方」等の話があったのですが、結局、共にあるということはどう具体化するかがということが極めて大切だということ。それでこれは授業だけではなくて、学級でも学校でも共にあるということを実際にどう考えるかということが改めて問われているということ。そのことを考える絶好の機会だなと個人的には思っています。でもそれがなかなか具体的な授業や、学校経営、学級経営でできていない。様々な事情があるのですが、やはりどこかで時々でいいから、「学校って何するところなの」、「教師って何するの」ということを、少し立ち止まって考えて見る時間が、どうしても必要だなという気がしています。コロナ禍ですから大変で、もうそんなことどころではないよという思いもあるでしょうが、だからこそ立ち止まって考えてみるということは、すごく大切だなと思います。</p> <p>関係性という視点であり様を考える、それが共にあるということを考えるポイントだろうという気がします。以前に校則についての話がありました。検討するということは、とても大切なことだと思います。これも、関係性という視点で考えて見る。そうすると、「誰がつくるのか」ということ、それはどうしてなのか、共にあるということをお考えたときに、どういう校則が必要なのかということから考えていくと、これまでとは違った議論ができるのだろうという気がします。</p> <p>コミュニティ・スクールということ自体が、共にある学校づくりということが根本にある考え方です。そのことを言葉だけではなくて、できるところから授業でも学級経営でも学校経営でも、やっけて行こうという考え方は極めて大切だということを改めて感じました。</p> |
| 重松教育長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>長岡委員。</p> |
| 長岡教育委員 | <p>私の専門のスポーツのことで言うと、まさにこのスポーツや運動というのは、リアルに体験しないと完結しないと思います。もちろんバーチャルでもできないことはないですし、実際、体が動かしたくても動かせない子供というのはたくさんいます。ではその子供たちは運動、スポーツは楽しめないのかということとそんなことはなくて、一生懸命動いているサッカーの試合や、野球を見てわくわくする、それはもちろんスポーツの楽しみ方だと思うのでいいとは思いますが、限界があると思います。しっかりと動ける子供たちというのは、やはり実際に運動して、</p> |

| | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>胸がドキドキする、汗をかく、人とのぶつかった感触、自分の体重、人の体重などそういうことでスポーツの楽しさを感じるので、やはりリアルの体験というのは重要なのだと思います。</p> <p>それから、幼児期がとても重要ということを生から言っていたのですが、今基礎的な動作を身に付けずに小学校に入学してくる子供が非常に多く、本来であればその時期までに身に付けておくべき動作がきちんと身に付いていない子供が多いので、やはり幼児期からの介入というか指導の重要性というのは、指導者もよく理解しておかないといけないなと思います。</p> <p>運動の楽しさということであると、地域のスポーツの指導者の体制づくりにも関連すると思うのですが、教える側と教わる方の両方に課題があると、先生はおっしゃったのですが、スポーツもそうで、指導者の方が、勝利至上主義になっていないかなという、勝つことだけが一元的な価値ではなく、もちろんそれも勝つことを目的とすることが楽しいという子供もいると思うのですが、そうではない思考を持っている子供もいるということ、教える側もやはり少し意識を変えなくてはいけない。それから教わっている子供たちも、うまくいかないことや勝てないことが決してだめなのだということではなく、スポーツの本質の楽しさというものを感じ取れるような、そういった指導の仕方が必要ではないか。それから教わる側の子供たちの意識というのも変えていかないといけないのだなということ、今のお話で確認しました。</p> |
| 重松教育長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>藤原委員。</p> |
| 藤原教育委員 | <p>私自身は10代のとき、運動が苦手だったので当時、長岡先生のような方が身近にいらっしゃったら本当によかったなと思います。そう思われている方は世の中たくさんいらっしゃるのではないかと思います。</p> <p>教育長から非常に興味深いお話をいただいた中で、先生が知っているから教えるというのではなく、子供たちの方も主体的に意欲が必要というのは、全くそのとおりだなと思いました。世の中的にも何かを知っている人が偉いという時代ではなくて、むしろ考え方や、発想の仕方を知っている人がこれからは優位に立てるという時代なのかなと思います。そういうところを現場の先生方に要求していくというのは本当に大変な話だと思うのですが、そこは子供と一緒に我々一般の社会人も含めて高め合っていくべきなのだろうなと思います。といいますのは、こ</p> |

| | |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>の2月に私、自分の出身小学校で、6年生を相手にOBとして授業をするという機会をいただきまして、職業教育、キャリア教育の一環として呼んでいただいております。私も別に専門的なことや知っていることを伝えても仕方がないので、どういう発想で我々の仕事は動くのかという視点で、子供たちに教えられたらなと思い、授業を組み立てました。具体的には、例えば子供がレンタルビデオでビデオを借りました。一週間で普通返せば問題ないが、ある日、家でそのまま見るのを忘れて一年間滞納しましたと。一年経ったときに、突然家に電話がかかってきて返してくださいと言われて、それで返しに行ったらべらぼうな罰金を請求されましたと。皆さんどうしますかと。皆さんどう「反論」しますかと言って、「反論」という言葉を使ったら、子供たちの中から、どう「言い返す」という意味ですかと聞かれて、うん、そうそう「言い返し方」をみんな考えてと言ったら、どんどん手が上がって、もうそれは通るもの通らないものいろいろあるのですが、やはり「言い返し方」を子供たちは一生懸命考えるわけです。</p> <p>その後、その学校の校長先生とお話ししたのですが、そういういろいろな何が大事かという価値判断に基づいて、いろいろな考え方を出し合うということがすごく大切なので、本当に後輩たちを見て心強く思いました、というところを共有させていただきました。</p> <p>ですので、子供たちは問い方を工夫すると、どんどん出てくるのだなというところを改めて思った次第です。</p> |
| 重松教育長 | ありがとうございます。 側垣委員。 |
| 側垣教育委員 | <p>今のお話を伺っていて、二つほど。一つは、教師も子供も共に学ぶということが大切だというお話で、まさにこのIT化で、去年芦屋で教育委員の研修を受けたときに講師の先生がおっしゃったのは、先生方が教える必要はないのだと。ファシリテーターとして一緒に子供たちとタブレットを使った学習を考えて行くのだという、ファシリテーターとなってほしいというお話があったのですが、まさにそういうことかなと今お話を伺っていて考えました。だから、子供たちの自発的な学びを導いていくというか、教え込むのではなく、導いていくという役割を持つのかなと。</p> <p>実は私どもの保育園でも、今日何して遊ぶということは、朝ミーティングで子供たちと一緒に考えるのです。どこそこの公園へ行きたいという意見が出たら、い</p> |

| | |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>や僕あっちの公園へ行きたいなど、そういう意見をお互いに交換して、では最終的に納得して、どこの公園へ行った、何して遊ぼう、みたいな、そういうことを経験するわけです。その中で自分たちが対話しながら、自分たちのやりたいことを決めていくという経験をし、それを一年間繰り返す。それから遊び方も工夫をされていて、園庭を改造して大きな築山を作りました。高さ1.8メートルぐらいで、上から見るとかなり高いです。斜面は40度ぐらいの結構急な斜面で、それを作ってから子供たちの遊び方が変わりました。今はその築山の隣にある楠にも登っていますし、平面的な遊びから立体的な遊び、それから2歳児でもその斜面を平気で登り降りするような、やはり自分の力を試してみるというか、新しい経験をすることということがとても重要なのです。うちの園の方針は、食べる、寝る、遊ぶ。「食べるから遊ぶ」を大切にしていた子供たちは育つよ、ということで、そうするとやはり、子供たちの発想などいろいろなことが成長するのだなと感じています。</p> <p>東京都の調査で、保育園、乳幼児期にたくさん一生懸命遊んだ子供たちは、小学校に入ってから社会性や、言語能力など非常に伸びるという結果が、3,000人ぐらいの調査でありました。まさにその豊かな遊びを経験した子供たちは、社会性や言語能力など社会で生き抜いていくための基本的な力が伸びていくのかなと。そう考えると、最近の子供たちは、外遊びや路地でみんなと追っ駆けっこしたり、かくれんぼしたりという経験がほとんどないのではないかなと。だからそういうことも、どうしたら提供していけるのか考えていかなければいけない、まさに地域全体で取り組んでいく課題かなと思いました。</p> |
| 重松教育長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>ほかにはございませんか。</p> <p>いろんな意見をありがとうございます。また、参考にしながら西宮としても取り組みを進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</p> <p>では、ないようですので、これより審議に入ります。</p> <p>議案第4号「西宮市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱の件」を議題とします。</p> <p>地域学校協働課長、お願いします。</p> |
| 地域学校協働課長 | <p>議案第4号「西宮市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱の件」についてご説明いたします。</p> <p>今回、解嘱の対象となる委員の解嘱理由につきましては、退職、校務分掌の変更、</p> |

| | |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重松教育長 | <p>人事異動及び本人からの申し出による委員です。</p> <p>また、委嘱の対象となる候補者は、学校長からの推薦のあった人となります。</p> <p>解嘱の対象となる委員の解嘱日につきましては、令和3年5月12日とし、新規で委嘱する委員の任期は、令和3年5月13日から令和5年3月31日までとなります。</p> <p>お手元の資料3ページをご覧ください。</p> <p>3ページには委嘱する委員候補の一覧を、次の4ページには解嘱する委員の一覧を記載しております。</p> <p>5ページ以降につきましては、学校ごとの委員名簿となります。表の網掛け部分が今回新しく委嘱する委員候補となります。</p> <p>説明は以上となります。よろしくお願いたします。</p> <p>説明は終わりました。</p> <p>これより質疑、討論に入ります。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、なければ採決に入ります。</p> <p>議案第4号については、原案のとおり可決してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 重松教育長 | <p>異議なしと認めます。よって原案は可決されました。</p> <p>次に、議案第5号「西宮市教育委員会事務事業評価アドバイザーの選任の件」を議題とします。</p> <p>教育企画課長、お願いします。</p> |
| 教育企画課長 | <p>議案第5号「西宮市教育委員会事務事業評価アドバイザーの選任の件」につきまして、ご説明をさせていただきます。</p> <p>「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検・評価し、議会に報告するとともに公表しなければならないこと。また、この点検・評価に当たっては学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされております。</p> <p>そこで、教育委員会事務局では、市で実施しております事務事業評価制度を活用</p> |

| | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>する実施規定を設けまして、点検・評価を行っております。</p> <p>本年度の事務事業評価のアドバイザーにつきましては、関西学院大学教育学部、教育学研究科及び放送大学大学院文化科学研究科の佐藤真氏にお願いしたいと考えております。</p> <p>議案書の次のページをご覧ください。</p> <p>佐藤氏は、教育学を専門とする大学教授としての、高度な学術知識をお持ちであります。</p> <p>また、教育に関わる学会の理事、審議会委員等を多数歴任しており、豊富な知見と深い知識に基づく、専門的な見地からの分析・アドバイスが期待できると考えております。</p> <p>さらに、昨年度からも、西宮市教育委員会事務事業評価アドバイザーを務めていただいておりますので、継続性をもった分析も期待できると考えております。</p> <p>以上に鑑みまして、佐藤氏が本年度の事務事業評価アドバイザーに適任であると考えております。</p> <p>なお、次のページに、事務事業評価制度を活用する実施規定を載せておりまして、さらにその次のページから、参考に、昨年度の「意見書」を資料として添付しております。</p> |
| 重松教育長 | <p>説明は終わりました。</p> <p>これより質疑、討論に入ります。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、なければ採決に入ります。</p> <p>議案第5号については、原案のとおり可決してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 重松教育長 | <p>異議なしと認めます。よって原案は可決されました。</p> <p>次に、報告第10号「西宮市学童等腎臓検診審議会委員の解嘱及び委嘱の件」を議題とします。</p> <p>学校保健安全課長、お願いします。</p> |
| 学校保健安全課 | <p>「西宮市学童等腎臓検診審議会委員の解嘱及び委嘱の件」につきまして、お手元</p> |

| | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 長 | <p>の資料報告第10号をご覧ください。</p> <p>西宮市学童等腎臓検診審議会委員1名につきまして、辞退の願い出があり交代することとなりました。3月31日付の解嘱と4月1日付の委嘱を行います。前任の任期につきましては、令和2年7月1日からの2年間ですので、後任の任期につきましては、残任期間であります令和3年4月1日から令和4年6月30日までとなります。</p> |
| 重松教育長 | <p>説明は終わりました。</p> <p>これより質疑、討論に入ります。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>なければ採決に入ります。</p> <p>報告第10号については、これを承認してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 重松教育長 | <p>異議なしと認め、承認します。</p> <p>一般報告①「令和3年度 西宮教育推進の方向（概要版）について」を議題とします。</p> <p>教育企画課長、お願いします。</p> |
| 教育企画課長 | <p>一般報告、「令和3年度 西宮教育推進の方向（概要版）について」ご説明いたします。</p> <p>昨年度、令和2年11月開催の「事務局との懇談会」の中で、「西宮教育推進の方向」の概要版作成についてご意見をいただきました。それに伴い、このたび「令和3年度 西宮教育推進の方向」概要版を作成いたしました。</p> <p>現在、西宮市ホームページには「西宮教育推進の方向」が掲載されていますが、推進の方向自体は、少しページ数が多いため、今回作成した「概要版」もホームページに掲載することで、市民の方が、「概要版」を読むだけでも、推進の方向の全体の要点を知ることができる、ということを目的にしています。</p> <p>概要版は、まず初めの3ページに教育大綱を掲載しております。</p> <p>続いて4ページ以降は、「推進の方向」の冊子の5ページから10ページに掲載されている「西宮教育の推進方針」をもとに、写真や図表を加えて作成したものを</p> |

| | |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重松教育長 | <p>掲載しております。</p> <p>今回お示ししている概要版は、5月中にホームページに掲載したいと考えております。</p> <p>この中について、ご意見等がございましたら、頂戴できればと考えております。</p> |
| 重松教育長 | <p>説明は終わりました。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p> |
| 山本教育委員 | <p>早速にありがとうございます。確認ですが、これはホームページに挙げるということだけですね。</p> |
| 教育企画課長 | <p>ホームページに掲載するのみです。</p> |
| 山本教育委員 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 重松教育長 | <p>ほかにはございませんか。</p> <p>なければ一般報告①を終了します。よろしいですか。</p> <p>では、これより非公開案件に移ります。</p> <p>一般報告②「児童生徒の状況について」を議題とします。</p> <p>学校保健安全課長、お願いします。</p> <p>(非公開)</p> |
| 重松教育長 | <p>ほかにはありませんか。</p> <p>では、これでこの議題は終わりにしたいと思います。よろしいですか。</p> <p>これで、一般報告②を終了します。</p> <p>以上で予定されていた議題は全て終わりました。</p> <p>これをもちまして第2回教育委員会定例会を閉会します。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p> |